

元気な会員さん紹介コーナー



松江土建株式会社
設計課長 多和田宏朋さん

5月27日、美保基地で航空自衛隊の航空祭をカメラ担いで撮影に行ってきた。

飛行機は時速800キロあまり、前夜から撮り方を研究です。瞬間的にシャッターを切らないと写らないのが難点。ピントの合わせ方が問題です。

後は飛行機の速さを重いレンズで追う。実に重労働です。撮った写真はおよそ500枚。いよいよブルーインパルスの登場です。

午後からは、黄砂を払いのけるかのように風向きが変わり、視程は良好！ 待ちに待ったメインイベント・ブルーインパルスによる華麗なアクロバット飛行が、この日最高潮となる約14万人の観客を前に繰り広げられました。青い空と白い雲が入り交じる中を、ファン・ブレイク、チェンジ・オーバー・ターン、ワイド・トゥ・デルタ・ループ、スター・クロスなど一糸乱れぬ編隊飛行に、会場内はシャッター音とともに大歓声に包まれました。



- 使用レンズ：400ミリ望遠ズームレンズ
- 設定：動いて居るものに追従して行くコンテナスモード
- シャッタースピード：800から1000分の一秒
- 測光範囲：ピンポイント
- 露出：一段明るく

サマーフェスタ2007

懸命に準備中で～す。

① 竹太鼓

新たな取り組みの竹太鼓、もっぱら製作中!

5～6人並べる太鼓が40本。200人はいけます。バチは600本。300人分用意しました。



② 音楽療法風景

今年のオープニングは、音楽療法のメンバーが活躍します。

乞うご期待、なかなかの練習風景です! あ～楽しみなこと!



～ お 礼 ～

千鳥福祉会 理事長 山本昌子

後援会活動を開始いただいて今年7年目、夏祭りよりひとつ年上です。100人を超える方々の暮らしを支えるなど、よく考えてみればなんとも怖いもの知らずな事業で、様々な出来事がある中でよくここまでこれたものだと思います。そして、その影には、「地域の皆様方のご理解」や「後援会をはじめとする多くの方々のご支援があればこそ」と感謝の気持ちが占めてまいります。

今後も多くのご心配をおかけすると思いますが、役職員一同、精一杯の努力で望みますので、本年度も変わらませずご指導ならびにご支援をお願いいたします。

いつの間にか夏祭りが近づきました。なかなか結果は出せませんが、「福祉の文化とは何か」「みんなで楽しむ祭りとはどんな祭りか」を追い求め続けたいと考えます。

夏祭りには、ぜひ出かけていただきますようお願い申し上げます。

今年のオープニングは全員で飾る!

千鳥福祉会の名物がまた、生まれる



Support News

後援会便り

社会福祉法人 千鳥福祉会

〒690-0814 松江市東持田町1415
TEL.0852-24-8820 FAX.0852-24-8825
ホームページ: <http://www.9ocn.ne.jp/~chidori>
メールアドレス: chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp

2007年6月15日 No.12

ご挨拶



千鳥福祉会後援会 会長
稲塚公郎
(松江土建株式会社社長)

深緑の項、会員の皆様におかれましてはご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素より当後援会活動に対しましては、様々なご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。

早いもので、今年は本格的に後援会事業を始めましてから7年目を迎えます。会員数も少しずつではありますが伸びており、皆様方のご協力の賜物と喜んでおります。そして、今年度役員の改選期でありましたが、理事、監事とも再任となり、再びお世話をさせていただきますこととなりました。ご支援を頂きますようお願いいたします。

さて、年頭の挨拶にも触れましたが、経済の戦国時代にあつて世の中の価値観も揺らぎつつあるようです。人は必ず自分の価値観によって行動するとされています。平たく言えば「人は考えたように動くもの」と言うことで、私たちは様々な出来事に振りまわされ、それが生きている証でもあります。これほど不幸な出来事が続く中で、今自分はなにを大切にしたいのか、今なにを大切にしなければならぬかをしっかり考えて、「大切にしたいもの」が守られるようであればならないと思わずにはいられません。企業であればそれが理念であり、様々な企業行動のバイブルでありましょう。

千鳥福祉会の理念「あなただけの生き方を支援し続けます」は覚悟のようにも取れます。さらに、理念実現の為に、「専門性を磨き、一人ひとりの人生に寄り添い、働く場、暮らすの場、楽しむ場を探し続ける。そして、願いが叶ったときの利用者の笑顔で、支援する側も周囲の方も笑顔になる」とありますが、それは多くの方との連携が実現して初めて実ることであり、後援会としても応援し続けたいところです。

また、総会のときにも少し触れましたが、私がかかわっています会議で障害者の一般就労実現について話合いがもたれました。そのため行政や企業や教育や福祉関係者はどう連携を作り上げるかということであると思います。千鳥福祉会でも今年一部自立支援法に移行され、2年以内に一般就労の実績を出さねばならないようです。これまでのように景気に左右されることなく実績が積みあがっていくようなシステムができ、「障害者雇用の問題が問題でなくなる」というようになればと思いますが、それは法制度の整備も不可欠で、あらゆる方面から知恵を出し合うこととなるようです。

千鳥福祉会のネットワークが広がり、支えあい、みんなが元気になり、明るいニュースが流れるような社会が実現して欲しいと願い、会員の皆様の一層のご協力をお願いする次第であります。今年度もどうかよろしくお願い申し上げます。

講演会について



先日、平成19年3月24日(土)午後16時より約1時間30分千鳥福祉会法人役員、後援会会員、千鳥福祉会管理職共同の講演会をホテル穴道湖で開催しました。講師には、島根県商工会連合会岡田専務理事様をお迎えし、「私の体験—これからの島根中小企業について」という演題でお話を頂きました。

内容は、1. 行政で体験したこと 2. 経済団体の実態について 3. 島根の中小企業の実態について 4. これからの島根の中小企業対策 5. 産業浸透と雇用の場の創出 6. 地域資源活用プログラム事業を骨子にお話が進み、「地域資源活用型企業創出」「地域のとらわれない経済活動(インターネット販売)等中小企業の今後の方向性を示して頂きました。また、事業に失敗した方が再チャレンジされ成功された事例や同級生で事業を成功させるためにどれほどの努力をなさったかなど身近な事例を交えたお話で分かりやすくあっという間に時間が過ぎました。

結びに、「島根県は特に製造業が元気にならねばだめだ」と述べられた言葉が印象に残りました。



(千鳥福祉会事業部長 宮廻俊夫)

ほっと一息

鈴木絹恵

新年度の「つばき」を拝見いたしました。職員の皆様の方の並々ならぬご苦労があること、それに対して弱い者達への支援を惜しまず追求し日夜模索を続けて下さること、ひしひしと感じ感謝の念でいっぱいでございます。

去年末から異状を来たし入院せざるを得なくなった孫ですが、それについては職員の方々の方ならぬ配慮を頂き、私は只電話を通して症状を聞くだけで何する事もなく今日まで甘えさせていただき本当に悪いと思っています。義姉の介護と孫の父親の急逝そして孫の病状の悪化と一緒にあった時には心身ともに参ってしまいましたが孫の入院についてはすべて職員の方々のお世話になりどれだけ感謝したか分かりません。

今では気持ちも落ち着き畑仕事も少しずつできるようになりました。父親の死をきっかけに長女が成長してくれたことが私の肩の荷をいくらかでも軽くしてくれたことの要因のひとつでした。紙面の都合上不十分ながら、皆様の暑いご厚情に改めて感謝申し上げます。

朝礼当番



千鳥福祉会後援会 副会長
伊藤 立身
(和光電通株式会社常務取締役)

先日、千鳥福祉会後援会総会が、会員の皆様のご理解とご協力の下、とどこおりなく終了致しました事心から感謝を申し上げます。有り難うございました。

当社の松江地区には、本社・松江支店・電設事業部と3部門が有り、松江地区全員の「全体朝礼」は毎週、火曜日と金曜日に開催、他の曜日は各部門毎に於いて行って居ります。全体朝礼の挨拶は役員の前番制、各部門毎朝礼の挨拶は各社員にて順番に行って居ります。以前の朝礼は役員の当番制で行い、一方的に話すだけであり社員はただただ聞くだけという状況でしたが、一役員の発案で現在の形となりました。当初は、人前で話す事がとても苦手な社員も、自分の番には何を話そうか、どうい話をしたら良く聞いていただけるかと考える様になり、回を重ねる毎に自信が付き、今では堂々と話す社員の姿も見えるようになって来たと思われます。

先日当番日となり、その前日に題材収集の為、テレビニュースや新聞に目を通しました。以前、後援会便りに「最近の日本は、何かがおかしい」と書かれていた事を思い出し、同じ様な思いとなり「この話をしよう」と決めた事をお話したいと思ひます。男子中学生が自分の母親の身体を鋸で切断し殺害、もう一つは、50歳の男が元の妻を人質に立てこもり、対応していた警察官を銃で死傷させる(いずれも詳細は省略致します)、という事件が立て続きに起きました。いずれも、私には相手のことを考えない自己中心的な考え方としか思えませんでした。

「日本人は、何かがおかしくなって来ている」

60才の一步手前を向かえる私ですが、親から「人に迷惑をかけるな!」と教わって来ました。この事は、周りのたくさんの方々と共に生きていく為の多くの要素が含まれている意味の深い言葉といえます。この言葉を胸に抱き皆様と共に歩みたいと思ひます。

義父



千鳥福祉会後援会 副会長
長峯 幸恵

みなさん、こんにちは!

今年の梅雨は、空梅雨なのでしょうか、このまま暑い夏が来てしまいうそですね。

7月には、最大のイベントであるサマーフェスタがあります。今年の天候に恵まれ、大成功でありますよう願っています。ところで我が家のことですが、義父が、半年の闘病生活の末、82年の生涯を閉じました。人の生き様は、亡くなった時にわかると思いますが、まさにその通り、いかに義父が生前、人様に慕われ、頼りにされていたかが感じられた瞬間でした。これこそ生前に積み上げた義父の見えない財産だったんだと思ひました。日蓮大聖人の御書に、「蔵の財よりも身の財すぐれたり身の財より心の財第一なり」とあります。心の豊かさ、他人への思いやり、正義を重んずる心を養い、心の財を積み上げ、義父のような人生の幕切れができれば幸せだらうな……。

そのためには、皆から信頼され、尊敬され、好かれ、皆のために必要であり、欠かせない人になれるよう努力しなくてはと考えさせられました。

ご挨拶



千鳥福祉会後援会 理事
野津 瑞江
(株式会社 神谷鉄筋 常務取締役)



先般の総会にて改めて役員を応接借りました、
でございます。

皆様におかれまして日頃より当会の事業運営に対し多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、等施設では地域において福祉や医療の連携のもとに、利用者の方々に安心してご利用いただける質の高いサービス提供を目指しておられます。

現代社会は少子高齢化の進展、地域社会構造の変化など流動の時代にありますが、その中で社会福祉施設への社会的ニーズは質量ともに増大しております。社会の要請に応えつつ、利用者の方々に「希望と安らぎのある生活」を送っていただけるよう職員の皆様にも一層の努力をされているところで、甚だ微力ながらその一助になればと応援させていただき所存でございます。

今後とも地域の皆様と共に歩む施設にご理解を賜りますようお願い申し上げます。



by Takuwa

参加する祭りに



千鳥福祉会後援会 監事
岩崎 光春
(クリエイティブプロダクションアドス代表取締役)

これからはお祭りの季節ですね。

日本人はお祭り好きと言われるますが、そのほとんどが見る側の祭好き。参加するとなると消極的になってしまうのは誰しもが経験済みではないでしょうか。これも国民性なのかもしれません。何でも力やの外から見るのがいいですね。

しかし、参加することが好きな人は、初めから好きではなく、やはり初めは見る側の人だったはず。では、どこで切り替わってしまったのでしょうか?それは紙一重なんです。初めは嫌々でも、参加するほんの小さなきっかけが生まれることで、そして参加することで、祭に参加することの快感を味わうことで変わってしまうのです。見る側から見せる側に。そして、本気で祭を体感し汗をかき、これが祭にのめり込む第一歩なのかもしれません。

そういう意味では今年のサマーフェスタは、見る側から参加する側の祭好き人間が数多く生まれるかもしれません。どうして?それは当日のお楽しみですね。ともあれサマーフェスタ、毎年毎年来場者が増えています、今年の祭を体感したらサマーフェスタファンがまた急増しそうですね。

赤信号、みんなで渡れば恐くない!って、これは違反ですけど、みんなでお祭りに参加して今年生まれ変わりますよ。お楽しみに。

踊る側がいい



千鳥福祉会後援会 監事
青山 まゆみ

皆さんこんにちは

一ヶ月ほど前、「俺は君のためにこそ死にに行く」と言う映画を観ました。そして、一週間ほど前「スパイダーマン3」を観ました。どちらもいろんな意味で感動しました。

今、「人生で大切なことはすべて映画で学んだ」と言う本を読んでいます。映画って本当にいいですね。生きる知恵や勇気を与えてくれます。今、早く観にいきたいのが「パイレーツオブカリビアン」です。絶対おもしろいですよ。

ところで今年もいよいよ夏祭りの時期がやってきました。サマーフェスタには参加することに意義がある実行委員1人として、6回目と言うのは大変頭の下がる想いでスタッフの皆様には心から敬意を表したいです。

毎年、とても手作りの企画運営とは思えないほどのボランティアの動員と企画ですが、「踊る阿呆に観る阿呆。おなじ阿呆なら踊らにゃ損々」のように、観る側、つまりお客さんではなく踊る側の方が感動は一層大きいものです。

今回はオープニングでいろいろな人たちの知恵と工夫によってみんなが踊って楽しめるような企画が用意されています。是非、1人でも多くの方がオープニングから参加され、「踊る阿呆」になって心から楽しみ、感動していただきたいのです。

一世一代の旅



千鳥福祉会後援会 理事
佐藤 エミ子
(有限会社 司建設常務取締役)

今からちょうど11年前の出来事です。

中国シルクロード-その言葉の響きに中学生の時からなんとなく魅せられ、憧れ続けていた私にある日突然その地への旅の誘いが舞い込んできました。中国の人たちと永年に渡り深い友情関係を築いて来られた郷里の先輩からでした。

当時、仕事と家庭を10日間も留守にする大変さ、又、中国奥地に入り込む不安感・・・病床の実母の事・・・自身の廻りを考えたとき、心は千々に乱れ身体を絞られる思いでしたが、万感の思いを夫に伝え承諾を得ることができ決意を固めました。

北京から西安、西安から飛行機でゴビ砂漠を越えて天山山脈の麓タクラマカン砂漠のオアシスの街トルファンへ到着。真夏50度から60度に達する灼熱の太陽の下の遺跡めぐり、孫悟空が空を飛び交った伝説の火山山、全山岩に山肌が陽炎で燃えていました。トルファンは、絵本で見たように、豊かなぶどうの緑の下で涼をとり自然とともに暮らし、子供たちは人なつこく寄って来て、愛らしく私たちと戯れ別れを惜しみました。その後、列車からバスと15時間かけて敦煌に移動。有名な莫(ぼ)高窟(こうくつ)を見学、月(が)牙(が)泉(せん)～鳴沙山(めいさざん)～陽関、陽関より西に出づる者は再び生きては戻れないと詠まれた陽関から再び西安へ、そして無事帰国、10日間の旅でした。

「日中友好シルクロードの旅」26人に加えていただき、中日友好協会の皆様に守られ、仲間へ助けられ、出発の5日前になくなった母を背中におんぶして、いつも二人一緒にお釈迦様をお参りする旅でした。

「希望の持てる福祉制度へ」

社会福祉法人むさしの郷 理事長
高橋 行

千鳥福祉会後援会の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

過日は、後援会の皆様と有意義な交流がもてたこと、感謝申し上げます。

社会福祉法人を30数年運営してきて思ひますのは、これが実に手間のかかる事業であることです。

重い知的障害を持つ子ゆえ、この子も一人の人間として、当たり前で生きられることを願い、懸命に施設の改革に挑戦してきましたが、これまでの努力にもかかわらず、多くの問題が残されたままだということです。施設に障害者を隔離収容した時代は実に長い期間です。当法人むさしの郷が「知的障害者が人間として認められない状況にある」と、コミュニティ・ケアを提唱し、生まれ育った地域社会で普通の生活をするべきとの運動を開始したのは30年前です。職員の報酬が少ないのは当然のことですが、全国の社会福祉法人の歴史をみても、福祉職員の犠牲的精神による障害者の人権擁護に対するたゆみない努力は言い尽せないものがあります。いまだ人間として当たり前の生活さえ実を結ぶまでには至っていないのです。これほど報われない職業もないものです。

それどころか、支援費は減額され、障害者本人の僅かばかりの障害者年金さえ奪う新制度は、経済先進国として世界に誇れるものでしょうか。

我々は、障害者の生存権や基本的人権の保障に対する公的責任を明確にすることによって、希望の持てる福祉制度を作らなければなりません。

その後、一年経っても鮮烈な旅の記憶が頭から離れず一年後に我が家であつた写真展を催しました。仲間や友人で小さな家がきしむほどの賑わいで思い出を噴火させていただき、やっと燃え尽きることができました。その時に作った散文です。笑って読んでください。

風になりたい

もしも私が風になれば
万里の砂漠を飛びこえて
かの地の子供のほっぺをそっとなでて行き
そしてぶどうの豊かな茂みと
甘酸っぱい香りの蒼い蒼いトンネルをくぐり
子供のころの自分に出会ってみたいのです。
昔は人と自然が共に生きて
吐魯番(トルファン)の子供たちと
同じ情景だったことを懐かしみます。
なぜかせつなく
妙にかなしく
そこには昔の私が
そのまま 子供のままで生きていました。
あの取りつくしまのない広大で過酷な自然
そして悠久の歴史と文化の谷間で
生きていく人々の生活…五十年前の自分を重ね
中国西方の旅は、今も心の中を駆けめぐり
熱い感動が再び甦ってきます。
一生一代の旅を無事終えて
今、新たな夢を吹き
風になりたい私です。

佐藤 エミ子